

野中恵介さんは中信署での体験を発表、特に低コスト・高作業システムによる森林作業道作設が林地環境にも負荷がかからない設計等が重要との発表がありました。



野中恵介さんの発表

米山雄樹さんは南信署での体験を発表、特にニホンジカ被害対策は広域的な地域連携等が必要との発表がありました。

中部局以外のインターンシップ等に参加された学生からも様々な発表があり、今後就職により各職場での活躍が期待されます。

今後も、中部局では学生が国有林野事業の実際の行政事務に接することにより、学生の意欲を喚起し高い職業意識を育成するとともに、国有林野事業及び林野行政に対する理解を深めてもらうことを目的として、インターンシップを継続していくこととしています。

各地からのたより

特別司法警察職員講習会を実施

【東濃署】三月六日、東濃署において、飛騨署・岐阜署・東濃署の三署合同による特別司法警察職員を対象とした講習会を開催し、三十一名が参加しました。

講師には岐阜県中津川警察署生活安全課長川瀬達也氏を招き、特別司法警察職員の立場、一般司法警察職員との違い、森林窃盗・不法投棄の対処方法等について、講師自らの体験等を交えながら分かりやすい講習を受けました。



講習会の様子

また、高山植物の窃盗については、高山植物を採取した人が、違法性を認識していなければ犯罪にならないこと、犯罪の未然防止のためにも、立て看板の設置・チラシの配布等一般の人々に周知することが重要であることを学ぶとともに、実際に事案が発生した場合には、地元警察と連携して対応することが大切であることを学びました。

「高齢級人工林ヒノキのブランド化」を地域イベントでPR

【木曽署】三月一日に上松技術専門校において、「ひのきの里の技能祭」(以下技能祭)が開催されました。

上松技術専門校は昭和二十一年に長野県上松職業補導所として開設され、現在では木工科、木材造形科の二科四十名が在学し、全国各地から集まった様々な年代の訓練生が木製家具、ろくろ、竹細工等の製作技術について学んでいます。

この技能祭では訓練生が作製した大型家具をはじめとした木工品を展示し、来場者に抽選のうえ販売しています。一般に販売されている家具より安価で購入できることから、地元はもとより全国各地から多くの方々を訪れ、毎年盛大に開催されており、今年は約五百名が来場されました。当署では木曽官材市売協同組合と合同

で「マルコウマルコク木曽ひのき」のスライドショーやパンフレットの配布、パネル掲示と木工品や丸太の展示等PRを行いました。



展示の様子

来訪者からは「木曽の人工林ヒノキも年輪が詰まって良い木になっている」「木曽といえは天然ヒノキとしかイメージがなかったが、人工林ヒノキも良いものだ」等の感想も聞かれ、一般の方々にも広く情報発信することができました。今後も、積極的に地域イベント等へ参加し、関連する団体と連携しながら国有林野事業の取り組みをPRしていくこととしていきます。

平成二十六年 度事業 に向けての取組

【東濃署】東濃署では、二月二十日から二十一日の二日間にわたり、第四四半期の取組課題の一つである「平成二十六年度の収穫・生産・販売事業に係る技術・精度等の向上」について、署長を始め全職員を対象に座学・見学・検討会を実施しました。

座学として次長から「なぜ低コストなのか」について一時間程度講義を受けた



合板工場見学の様子

後、局・技センを含め総勢三十三名が参加して、管内にある内陸型国内初の「森の合板工場（平成二十三年本格稼働）」において、当署から生産された木材が製品として出荷されるまでの工程を見学しました。エンドユーザーとして国産材の安定供給に期待する切実な現場の声も聞かせて頂き、計画的な事業実行の責任を感じました。また、治山グループでは「国産針葉樹型枠合板の利用推進」という課題に更に一歩足を進める機会となりました。



低コスト現地検討会の様子

二日目の「低コスト事業実現に向けた現地検討会」では、地形・地質から路網系に馴染みにくい現地で、最大限路網を活用することにより低コストな作業システムを如何に実現するかについて、森林官、地域技術官、森林技術員も参加して検討を行いました。外部講師として、その道の先駆けて全国各地で技術指導を行っている森杜産業(株)田邊氏を招き、林内に雪の残る次年度伐採系森林整備事業地と一緒に歩いて、路網の線形を實際に入れる作業などを指導頂き、低コストな作業システムでの事業発注等の参考となる有意義な取組を行うことができました。



【北信署 野沢森林事務所】

重松千晶 森林官

野沢森林事務所は長野県のほぼ最北端に位置し、日本でも指折りの豪雪地帯である野沢温泉村に所在します。国有林は新潟県との県境稜線部が大部分を占め、約四千五百ヘクタールの森林面積を管理しています。国有林の多くは地域の重要な水源かん養林となっており、国有林内の水尾山から湧き出た水を使って造られた日本酒「水尾」は、後味の切れが良く、多くの日本酒ファンを魅了しています。



攻防の末、火が点けられた道祖神祭り社殿

野沢森林事務所管内には良質な雪で有名な野沢温泉スキー場、戸狩温泉スキー場があり、毎年多くのスキーヤーが訪れ、村内にある無料の立ち寄り湯と共に長野県内でも人気の観光地となっています。近年はオーストラリアなど海外から長期滞在でスキーを楽しむ方も多く、先日は業務終了後に森林事務所近くの立ち寄り湯に行った際、入浴者が全員海外からの観光客であり、村にいなながらインターナショナルな空気を味わうことができました。



生産事業における安全指導

野沢温泉村では日本三大火祭りの一つに数えられている「道祖神祭り」が毎年一月十五日に開催されます。その社殿の一部に使われるブナ材の供給を村と協定を結んで行っています。管内には、こうした地域との連携を必要とする業務も多くあります。

管内の植生はブナの天然林が多く存在し、新潟との県境を歩く信越トレイルは北信署、上越署、地元NPOとの協定により整備され、春にはブナの新緑やギフチョウなど、自然の豊かな風景を見るこ



非常勤職員との巡検用務

とができます。また、巨木百選にも選ばれたブナの大樹である「森太郎」が存在し、秋の紅葉も雪の情景も美しく、四季を通じて訪れた人に楽しんでいただいています。こうしたトレイル内に危険木がないか、適切な利用はされているか、などの点検業務も日々行っています。

赴任当初は、雪深い奥地の村でうまくやっていたのだろうかと不安も多くありましたが、村民でもある非常勤職員の方々に支えられ、巡検用務や地域との対応などスムーズに事業を進行させることができています。また、無理だと思っていた大型除雪機の運転も、ご近所の方から褒められるまで上達しました。



使用している除雪機

豪雪地帯であり、現場業務を行える時間が限られてしまう地域ではありますが、来年度は、複層伐を実施した箇所でもコンテナ苗の植栽を行うなど、新たな取組をする中で、業務を計画的に、そしてやる前から諦めることなく、今後も森林官業務を邁進していきたいと思えます。

人のうごき

中部森林管理局人事

退職

二月二十八日付

▽(岐阜森林管理署 署付)

生駒 豊文

お悔やみ申し上げます

故 日下部 道人 氏

伊那谷総合治山事業所 経理係長

農林水産技官 日下部道人氏は二月二十日に、ご逝去されました。

日下部氏は経理課、東濃署、飛騨署、岐阜署、技術センター、伊那谷総合治山事業所等に勤務され、活躍されてきました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。





木曾馬

◇木曾馬(きそうま)
平成二十六年の干支である馬にちなみ「木曾馬」を紹介します。
木曾馬は長野県木曾地域(木曾郡)を中心に飼育されている日本在来種の馬で、本州では唯一の在来種です。
昭和三十年代頃まで農耕用や木材の運搬に活用されてきましたが、昭和四十年以降、耕運機の普及等で木曾馬を飼う農家が減少し、木材の搬出も林業機械に代わり馬搬(ばはん)をする人もいなくなりました。



最近では馬搬(ばはん)を復活させようとする試みが始まり、木曾馬が運んだ木材を使った木製品を作るなど、木材産地ならではの文化と木曾馬保存に対する関心を高め、地域活性化につなげたいと取り組んでいます。



木曾馬の放牧

木曾郡木曾町開田高原では、昭和四十四年に木曾馬保存会が設立され、一時絶滅寸前であった「木曾馬」の飼育・保存に取り組み、現在では百六十頭程度まで増えてきています。
木曾郡木曾町開田高原にある「木曾馬の里・乗馬センター」には、約三十頭が飼育され、乗馬体験など観光客の人気を集めています。



へぎ板の製作の様子

◇へぎ板
へぎ板は木の繊維を壊さず、削らずに手で割って、厚さ一ミリ以下まで薄くして作られる板です。年が経つにつれ艶がでてきます。
数百年生の天然木で目がつまったものでないと、へぎ板を作ることはいけません。木曾はヒノキが知られていますが、黒部(くろべ)別名ネズコ、サワラと粘り

アクセス方法
【公共交通機関】
JR 中央西線木曾福島駅より、おんたけ交通バスで約三〇分
【百家用車】
中央自動車道中津川 IC 〳 国道十九号線經由約一時間三〇分、長野自動車道塩尻 IC 〳 国道十九号線經由約五〇分

◇へぎ板
この技術は、古くから茶室などの室内装飾に用いられてきた伝統的な技術ですが、機械の普及などもあり、今では木曾谷でへぎ板を作れるのは二人の職人となっていました。
木や竹を編んでゆく「網代細工(あじろざいく)」は各地に伝承されていますが、一本の丸太から「へぎ板」を作製し、細工によって天井や衝立等の完成品に至るまでの技術を持つ職人さんは、今や国内で長野県木曾郡上松町「小林へぎ板店」の小林鶴三さんのみとなりました。小林さんは林野庁の「日本 森の名手・名人」に認定されています。

◇へぎ板
へぎ板は木の繊維を壊さず、削らずに手で割って、厚さ一ミリ以下まで薄くして作られる板です。年が経つにつれ艶がでてきます。
数百年生の天然木で目がつまったものでないと、へぎ板を作ることはいけません。木曾はヒノキが知られていますが、黒部(くろべ)別名ネズコ、サワラと粘り

◇へぎ板
へぎ板は木の繊維を壊さず、削らずに手で割って、厚さ一ミリ以下まで薄くして作られる板です。年が経つにつれ艶がでてきます。
数百年生の天然木で目がつまったものでないと、へぎ板を作ることはいけません。木曾はヒノキが知られていますが、黒部(くろべ)別名ネズコ、サワラと粘り



網代細工

◇へぎ板
へぎ板は木の繊維を壊さず、削らずに手で割って、厚さ一ミリ以下まで薄くして作られる板です。年が経つにつれ艶がでてきます。
数百年生の天然木で目がつまったものでないと、へぎ板を作ることはいけません。木曾はヒノキが知られていますが、黒部(くろべ)別名ネズコ、サワラと粘り